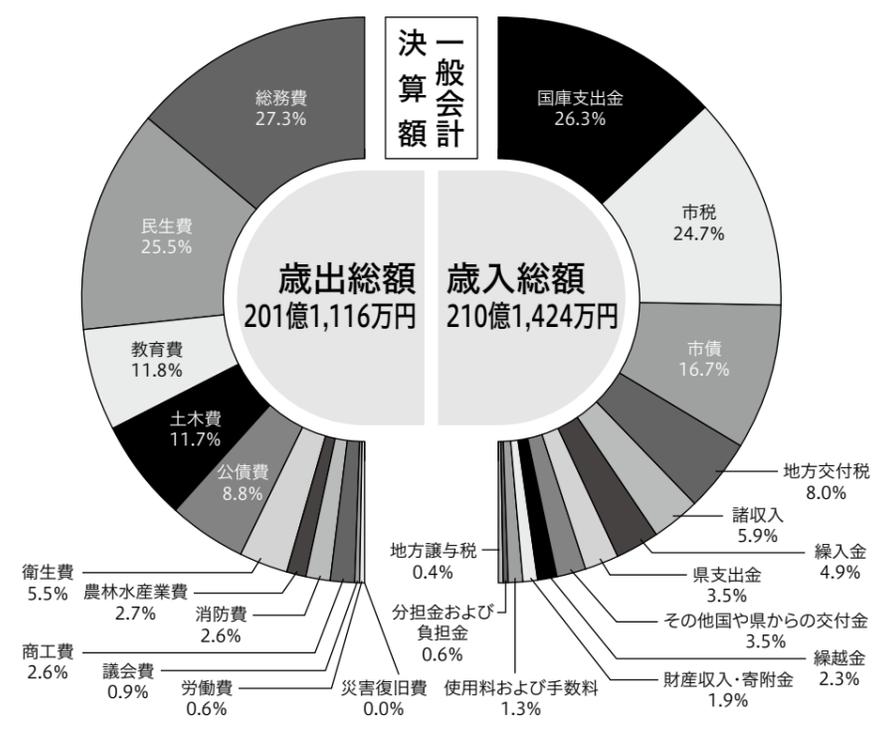


# 決算公表

問い合わせ  
企画財政課 ☎59-2121



## 一般会計

歳入 210.1 億円

歳出 201.1 億円

決算は、私たちが納めた税金や国・県からの補助金などのお金の使い方をまとめたものです。

市議会に提案した各会計の決算額は、表のとおりです。令和2年度に一般会計に入ってきたお金(歳入)と、使ったお金(歳出)との差は引きは、9億308万円です。令和2年度に予定していた大竹駅周辺整備事業などを翌年度に行うことになり、その事業に必要な財源8億9368万円を差し引いた940万円が令和2年度に残ったお金です。このうち、500万円を

### 令和2年度会計別決算額

	歳入	歳出	差引
一般会計	210億1,424万円	201億1,116万円	9億308万円
特別会計			
国民健康保険	31億9,897万円	31億8,196万円	1,701万円
漁業集落排水	3,369万円	3,369万円	0円
農業集落排水	4,458万円	4,458万円	0円
港湾施設管理受託	7,932万円	5,482万円	2,450万円
土地造成	2億6,326万円	7億9,982万円	△5億3,656万円
介護保険	25億9,750万円	25億5,261万円	4,489万円
後期高齢者医療	5億558万円	5億527万円	31万円

財政調整基金に積み立てました。

### 前年度と比べてみると

歳入では、新型コロナウイルス感染症対策に伴う国庫支出金の増に加え、地方交付税や地方消費税交付金の増などにより、全体では44・7%の増となりました。

増となりました。歳出では、新型コロナウイルス感染症対策費や、本庁舎耐震改修事業、大竹駅周辺整備事業及び大竹会館改築等事業などの大規模事業により、総務費、民生費、土木費、教育費などの増により、全体では44・1%の増となりました。

## 歳出

内訳	決算額
総務費 市の全般的な管理事務経費、支所、選挙などの経費	54億8,247万円 (20億8,115万円)
民生費 生活保護や児童・高齢者などの経費	51億2,492万円 (43億2,546万円)
教育費 小・中学校の運営や社会教育などの経費	23億8,113万円 (9億9,625万円)
土木費 道路、河川、港湾、市営住宅、公園などの経費	23億4,854万円 (19億2,872万円)
公債費 過去の借入金の返済金	17億6,055万円 (18億2,609万円)
衛生費 衛生的な生活環境を守るための経費	11億1,553万円 (13億8,897万円)
農林水産業費 農林業や水産業の振興などの経費	5億3,807万円 (2億5,404万円)
消防費 消防・救急業務や災害対策の経費	5億3,104万円 (5億8,680万円)
商工費 商工業の振興や観光宣伝などの経費	5億2,474万円 (1億9,787万円)
議会費 議会の活動にかかる経費	1億7,913万円 (1億7,735万円)
労働費 労働者の生活安定や福利増進事業などを行うための経費	1億2,000万円 (1億2,005万円)
災害復旧費 災害復旧にかかる経費	504万円 (7,707万円)
<b>総額</b>	<b>201億1,116万円</b> (139億5,982万円)
形式収支(歳入決算額-歳出決算額)	9億308万円
令和3年度へ繰り越した財源	8億9,368万円
実質収支(形式収支-令和3年度へ繰り越した財源)	940万円

## 歳入

内訳	決算額
国庫支出金 特定の目的のために国から交付されたお金	55億2,382万円 (18億4,360万円)
市税 市民税や固定資産税など	52億61万円 (53億5,735万円)
市債 大きな事業を行うために国や金融機関から借り入れたお金	35億165万円 (16億8,272万円)
地方交付税 市の財政力などに応じて国から交付されたお金	16億7,447万円 (15億1,834万円)
諸収入 他の収入科目に含まれない収入(貸付金元金収入など)	12億2,867万円 (9億6,647万円)
繰入金 基金繰入金など	10億3,151万円 (6億9,882万円)
県支出金 特定の目的のために県から交付されたお金	7億4,541万円 (7億513万円)
その他国や県からの交付金 消費税のうち一定割合で交付された地方消費税交付金など	7億3,875万円 (6億4,334万円)
繰越金 前年度から持ち越したお金	4億8,515万円 (4,826万円)
財産収入・寄附金 土地売却収入、寄附金など	4億246万円 (5億3,215万円)
使用料および手数料 市営住宅使用料、ごみ・し尿処理手数料、各施設の使用料など	2億6,842万円 (2億8,525万円)
分担金および負担金 保育料、養護老人ホーム入所者負担金など	1億3,623万円 (1億6,753万円)
地方譲与税 国が徴収した税の一部を一定割合で譲与されたお金	7,709万円 (7,601万円)
<b>総額</b>	<b>210億1,424万円</b> (145億2,497万円)

※( )内は前年度決算額

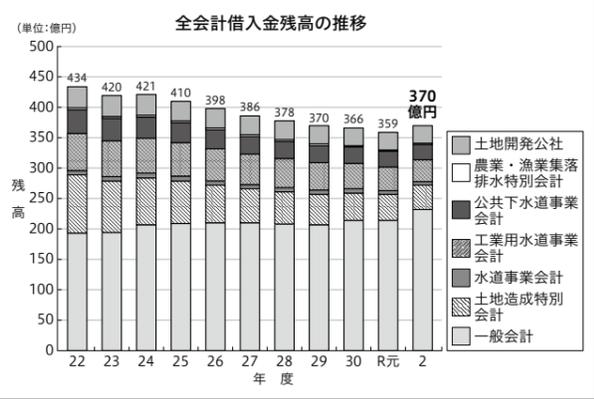
### 令和3年度上半期の財政状況(繰越分を含みます)

令和3年度上半期(4月~9月)の、一般会計・特別会計の予算執行状況(9月30日現在)は、表のとおりです。

	予算現額		
	歳入状況	歳出執行状況	
一般会計	179億6,898万円 39.1%	31.3%	
特別会計	国民健康保険	33億1,657万円 37.2%	35.9%
	漁業集落排水	4,649万円 2.3%	15.7%
	農業集落排水	4,932万円 3.5%	30.5%
	港湾施設管理受託	6,447万円 73.4%	35.1%
	土地造成	8億2,749万円 2.5%	81.3%
	介護保険	26億3,240万円 39.9%	41.0%
	後期高齢者医療	5億1,232万円 34.9%	41.8%

### 借入金残高が増加しました

土地造成特別会計などの借入金残高が減少しましたが、大竹駅周辺整備事業などの大規模事業を行うための財源として、市債(借入金)を発行したことにより、全会計の借入金残高は359億円から370億円に増加しました。



**用語解説**  
財政調整基金...年度間の財源の不均衡を調整するための貯蓄。財源が不足した年度は取り崩し、黒字決算の場合は、剰余金の半分以上を積み立てます。

【重点3】安全なまちづくり

事業名	事業概要	事業費
高規格救急自動車整備事業	平成16年度に整備した高規格救急自動車（高度救命処理用資機材含む）を更新しました。	4,204万円
防災情報伝達強化事業	市内で防災行政無線の放送が聞こえづかった地区、あるいは防災拠点となる施設を中心に、防災行政無線のスピーカーを高性能タイプへ交換しました。	1,044万円

【重点4】安心できるまちづくり

事業名	事業概要	事業費
市立保育所等整備事業	市役所本庁舎敷地内に、「なかはま保育所」と「立戸保育所」を統合移転し、「子育て支援センター（どんぐりHOUSE）」を移転するほか、乳幼児健診などの母子保健事業も実施できる施設として、令和4年4月1日開設に向け整備を進めています。令和2年度中に設計を完了し、建設工事を実施しています。	4億7,690万円
私立保育所等整備事業	「ひまわりさかえこども園」の園舎改築・大規模修繕工事、「こぐま園」の創設工事に対して補助金を交付しました。	3億3,272万円

【重点5】心にゆとりを感じるまちづくり

事業名	事業概要	事業費
大竹会館改築等事業	耐震性に問題のある老朽化した旧館と新館（エスポワール）を解体し、大竹警察署側に新築棟本館（アゼリアおおたけ）の増築と講堂兼体育館（アゼリアホール）の改修などの事業を実施しました。	14億1,886万円
手すき和紙作業所運営管理事業	学習交流棟が平成31年4月21日にオープンし、おおたけ手すき和紙保存会による新たな事業を展開しています。また、リーフレットの発行やホームページの開設により、積極的な情報発信を進めています。	80万円

【重点6】行政・社会の仕組みづくり

事業名	事業概要	事業費
自治会活動支援事業	住みよい地域社会づくりのため、自治会の運営と活動拠点である地区集会所の改修などを支援しました。単位自治会などの運営を支援するため、補助金を交付しました。自治会を通じて市民に広報紙などを配布しました。	1,508万円
まちづくり基本構想等策定・推進事業	第五次大竹市総合計画（わがまちプラン）が令和2年度で終了することに伴い、新しい指針として、大竹市まちづくり基本構想などを令和元年度・令和2年度の2カ年で策定しました。	956万円

主な事業

内部経費の削減に努めながら、第五次総合計画後期基本計画実施計画に掲げる重点施策を中心とした事業に取り組みました。

事業実施の状況



大竹を愛する人づくり 生活基盤が整ったまちづくり 安全なまちづくり 安心できるまちづくり 心にゆとりを感じるまちづくり 行政・社会の仕組みづくり

【重点1】大竹を愛する人づくり

事業名	事業概要	事業費
吊り天井改修事業	大竹中学校武道場の設計業務および改修工事を行いました。また、小方小学校小ホールの設計業務を行い、令和3年度に改修工事を行う予定です。令和3年度で文部科学省が点検対象とする屋内運動場などの吊り天井の改修事業が完了する予定です。	2,408万円
奨学金貸付事業	有用な人材の育成を目的として、経済的な理由により高校や大学などでの修学が困難な優良な生徒に対し奨学金を貸し付けました。また、定住促進を目的として、市内に継続して一定期間居住する制度利用者に対し奨学金の返還を免除しました。	648万円

【重点2】生活基盤が整ったまちづくり

事業名	事業概要	事業費
大竹駅周辺整備事業	大竹市の玄関口であるJR大竹駅へのアクセスや駅周辺の回遊性の向上と、駅周辺の円滑な自動車アクセスと交通拠点・結節点としての機能強化を目的に、駅を橋上化し、JR山陽本線で分断されている東西地区を自由通路で結び、東口と西口広場を一体的に整備・バリアフリー化を実施します。令和2年度は、鉄道事業者と年度協定を締結し、自由通路などの本体工事に着手しました。また、駅舎の補償工事を実施したほか、工事の支障となる物件の補償、自由通路東口階段部等の用地買収を行いました。既存の駅前広場においては、自由通路整備の工事ヤードを確保するための駅前広場仮設ロータリーを供用するとともに、東西広場の詳細設計が完了しました。	6億1,342万円
晴海臨海公園整備事業	晴海臨海公園では、子どもから高齢者まで多様な人々の憩いの場となるファミリーゾーン・シーサイドゾーンの整備を進めています。令和2年度は、晴海臨海公園第3期工事に向けた地元説明会を行ったほか、横断防止柵や総合看板の設置、球技場のメンテナンスを行いました。	1,070万円

「実質公債費比率」  
14・9%（16・1%）  
早期健全化基準 25%  
財政再生基準 35%

「連結実質赤字比率」  
早期健全化基準 18・85%  
財政再生基準 30%  
単年度の収支における普通会計と公営事業会計を含めた会計全体の歳出超過の割合を示します。  
赤字はありません。

「実質赤字比率」  
早期健全化基準 13・85%  
財政再生基準 20%  
単年度の収支における、普通会計の歳出超過の割合を示します。  
赤字はありません。

「将来負担比率」  
156・4%（157・3%）  
早期健全化基準 350%  
財政再生基準 設定なし  
標準的な税収などに対する、普通会計と公営事業会計に第3セクター等の純負債を加えた負債がどの程度あるかを示します。  
前年度と比べると普通交付税の増加などにより改善しました。

健全化判断比率による現状

自治体の財政状況を判断する「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つの指標は、全て「健全」でした。（内は昨年度の数値です。）

借入金の返済などの割合を3年度の平均値で示します。前年度と比べると、借入金の返済額の減少などにより改善しました。

決算書を販売しています

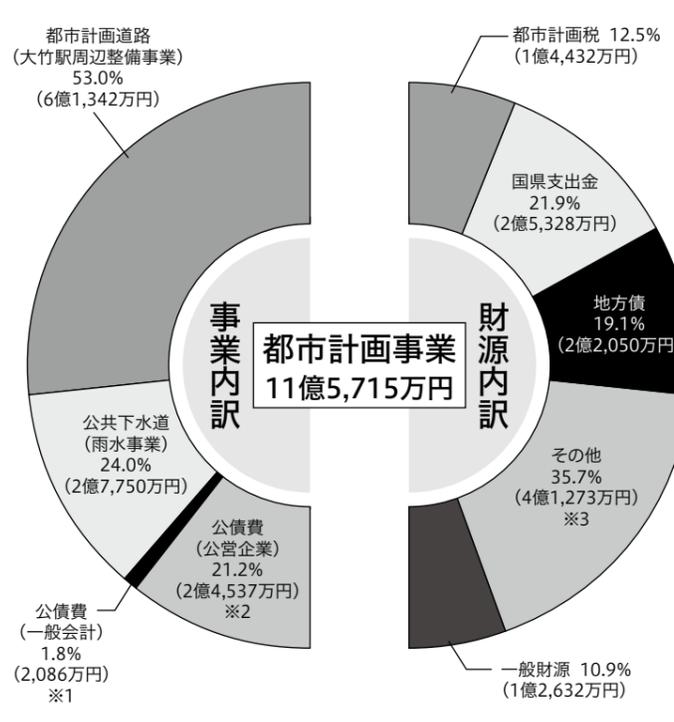
問い合わせ  
企画財政課 ☎59-2121  
令和2年度の決算書（A4版298ページ）を1,000円で販売しています。また、市立図書館や情報公開コーナー（市役所2階）、市ホームページでもご覧いただけます。

都市計画税は、大竹駅周辺整備事業、南栄下白石線外1路線道路改築事業、雨水事業等の事業費や公債費に使われています。

※1 公債費（一般会計）とは、過去に一般会計において実施してきた都市計画事業（都市計画道路事業）のために発行した地方債の元利償還金です。

※2 公債費（公営企業）とは、過去に公営企業会計において実施してきた都市計画事業（公共下水道事業）のために発行した地方債（企業債）の元利償還金です。

※3 その他には、下水道使用料などが含まれます。



都市計画税は、都市計画事業を行うための目的税です。令和2年度の都市計画事業費 11億5,715万円のうち、1億4,432万円を都市計画税でまかさないました。